

分散型エネルギーへの

転換は何を

もたらすのか

オンライン
同時開催

申し込みはこちらから



<https://ws.formzu.net/dist/S327121152/>

参加無料

2023年 3/29 (水)

時間 13:00~17:00

会場 ハイブリッド
(環境総合館 レクチャーホール)

2050年カーボンニュートラルの実現には再生可能エネルギー(以下、再エネ)の普及促進が不可欠です。

再エネへの転換は、従来の集中型エネルギー源から分散型の資源利用への転換を意味し、地域経済の活性化やエネルギー供給への参画など、新たな機会の創出が期待されます。一方で再エネ施設の設置に伴う景観の悪化や土砂災害リスク、各地域に適應するガバナンスの必要性などの課題も山積しています。

名古屋大学大学院環境学研究科の地球環境科学専攻、都市環境学専攻、社会環境学専攻は、多様な観点から再エネ促進に向けた研究を行っています。本シンポジウムでは、3専攻の教員と学生が一堂に会し、私たちの取り組みを広く発信するとともに、分散型エネルギーへの転換の意義について議論します。

Program

- 13:00 趣旨説明 「環境学研究科における再エネ研究」
宮坂隆文(環境学研究科地球環境科学専攻 講師)
- 13:10 論点整理 「再エネ事業のリスクガバナンス」
丸山康司(環境学研究科社会環境学専攻 教授)

事例セッション1:再エネ転換がもたらす機会

- 13:35 「オフグリッドを選択する人々」
高野雅夫(環境学研究科地球環境科学専攻 教授)
- 13:55 「都市固形廃棄物からの燃料電池発電・水素電解製造」
日比野高士(環境学研究科都市環境学専攻 教授)

事例セッション2:再エネ転換におけるリスク管理

- 14:30 「風車の行政計画と景観アセスメントの国際比較」
宮脇勝(環境学研究科都市環境学専攻 准教授)
- 14:50 「洋上風車の景観シミュレーションによる視覚的影響評価事例」
内田正紀(環境学研究科都市環境学専攻 博士前期課程二年)

事例セッション3:再エネ転換におけるガバナンス

- 15:20 「太陽光発電ゾーニングの現状と課題、合意形成のための手法とツール」
山下紀明(環境学研究科社会環境学専攻 博士後期課程一年)
- 15:40 「豊田市中心部地域における木質バイオマスガス化発電の実現可能性調査事例」
植山光樹(環境学研究科地球環境科学専攻 博士前期課程二年)

- 16:15 パネルディスカッション 司会:丸山康司
パネリスト:講演者+
上村泰裕(環境学研究科社会環境学専攻 准教授)

- 16:55 閉会挨拶
西澤泰彦(環境学研究科都市環境学専攻 教授)

主催

名古屋大学大学院 環境学研究科 地球規模課題3「生態系サービスとランドスケープ」、
地球規模課題4「エネルギーの確保と供給」、地球規模課題8「環境と人間のウェルビーイング」

お問い合わせ

miyataka@nagoya-u.jp(宮坂 隆文)